

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 機械受注統計調査(2012年4月)

発表日 2012年6月13日(水)

～事前予想を上回る良好な結果だが、先行きの下振れリスクに注意～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位: %)

		民需			代理店	官公需	外需
		船舶・電力除く 前期比	製造業	非製造業			
			船舶・電力除く 前期比	船舶・電力除く 前期比			
11	1-3月	3.6	4.7	1.8	7.8	▲ 7.7	9.0
	4-6月	2.8	0.7	4.2	3.3	1.4	▲ 9.8
	7-9月	1.6	▲ 0.0	3.6	▲ 6.7	▲ 2.4	▲ 3.5
	10-12月	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.5	11.6	9.6	6.7
12	1-3月	0.9	0.1	0.5	10.2	10.9	6.6
	4-6月(見)	(2.5)	(2.6)	(0.5)	(▲ 5.1)	(▲ 16.5)	(▲ 9.7)
11	1月	2.0	4.3	4.0	8.2	▲ 3.4	8.7
	2月	2.7	▲ 0.7	1.5	▲ 3.0	10.6	13.2
	3月	▲ 0.7	1.1	0.6	2.3	▲ 9.3	▲ 13.4
	4月	▲ 0.2	▲ 1.2	1.7	16.2	1.0	▲ 0.6
	5月	0.1	0.2	▲ 2.6	▲ 14.5	5.8	▲ 3.7
	6月	7.7	4.1	10.2	▲ 6.4	▲ 0.5	▲ 4.6
	7月	▲ 2.8	▲ 3.0	▲ 1.1	▲ 0.5	▲ 1.2	▲ 6.8
	8月	0.5	4.6	▲ 4.1	▲ 0.8	▲ 4.2	22.2
	9月	▲ 2.3	▲ 7.8	5.6	12.7	0.3	▲ 16.0
	10月	▲ 0.6	2.8	▲ 4.8	1.2	1.8	1.6
	11月	3.1	2.9	5.4	2.1	▲ 5.9	14.1
	12月	▲ 2.5	▲ 4.0	▲ 4.0	2.5	41.3	4.1
12	1月	0.7	▲ 1.3	1.4	▲ 2.1	▲ 16.1	14.6
	2月	2.8	9.5	2.1	3.8	▲ 6.1	▲ 13.4
	3月	▲ 2.8	▲ 8.4	▲ 3.9	21.5	40.0	▲ 14.4
	4月	5.7	3.4	5.7	▲ 21.1	▲ 5.0	0.3

(出所) 内閣府「機械受注統計」

○ 良好な結果だが、海外経済の先行き不透明感の強まりが投資マインドを下振れさせる可能性に注意

内閣府から発表された2012年4月の機械受注（船舶電力除く民需）は前月比+5.7%となり、事前の市場予想（前月比+1.3%、レンジ：▲3.4%～+5.3%）を上回った。化学や卸小売で一時的とみられる急増があった点は割り引いて見る必要があるが、その点を差し引いても比較的良好な結果だろう。この結果、4月の値は1-3月期平均の水準を4.6%上回った。5、6月がそれぞれ前月比▲2.0%以上であれば、4-6月期の内閣府見通しである前期比+2.5%を達成できる計算だ。5月に多少の反動減を見込んだとしても、達成の可能性は十分ある。復旧・復興需要が下支えになっているほか、震災後に先送りされてきた投資が顕在化していることなども影響しているのだろう。先行きについても、復興関連投資による押し上げに支えられ、設備投資は緩やかな増加基調で推移する可能性が高い。日銀短観や法人企業景気予測調査、日本経済新聞社調査などにおける設備投資計画が軒並み強めの結果になっていることも、今後の設備投資持ち直しを示唆している。

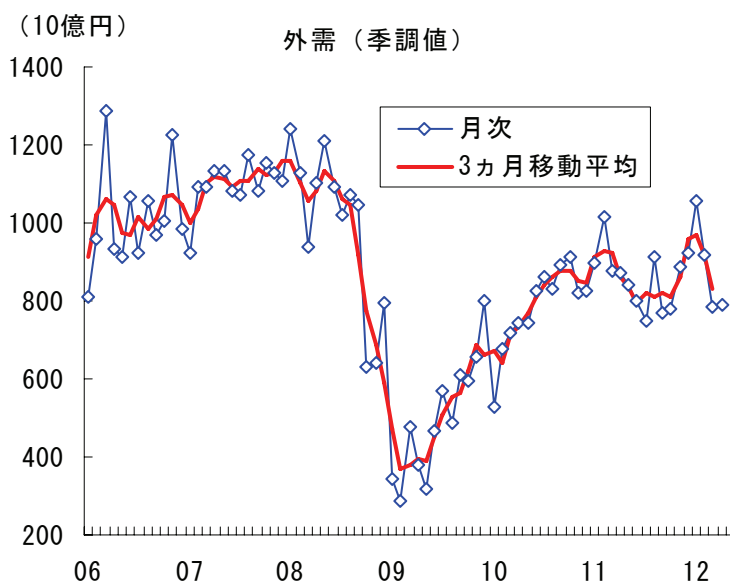
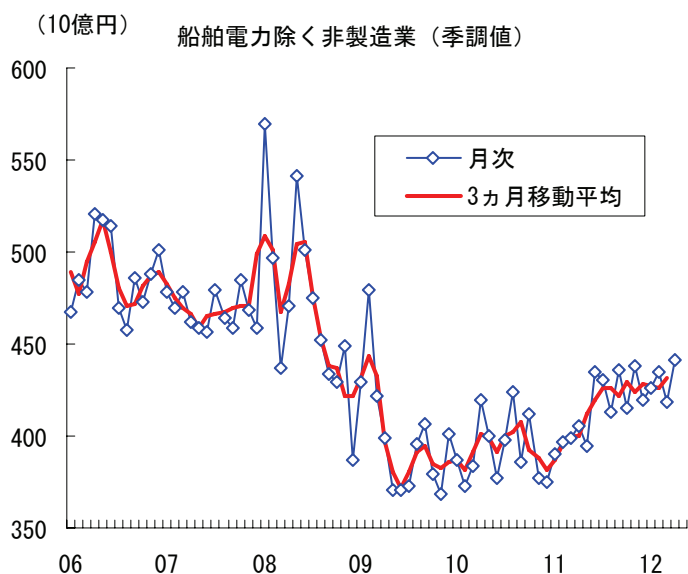
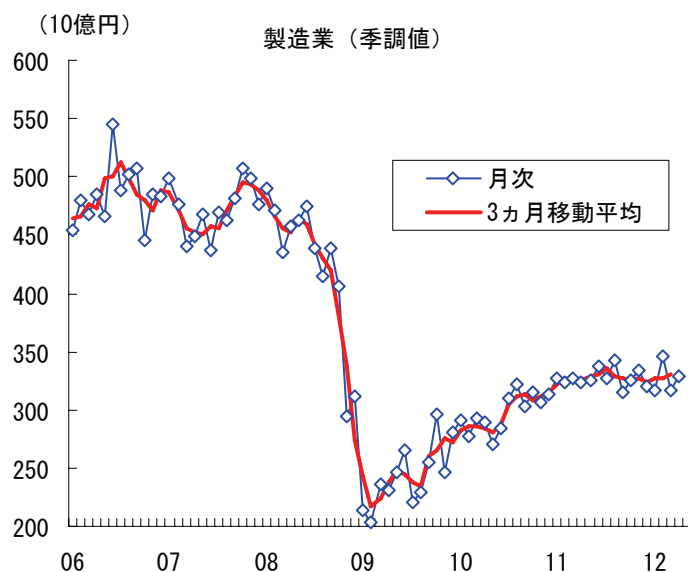
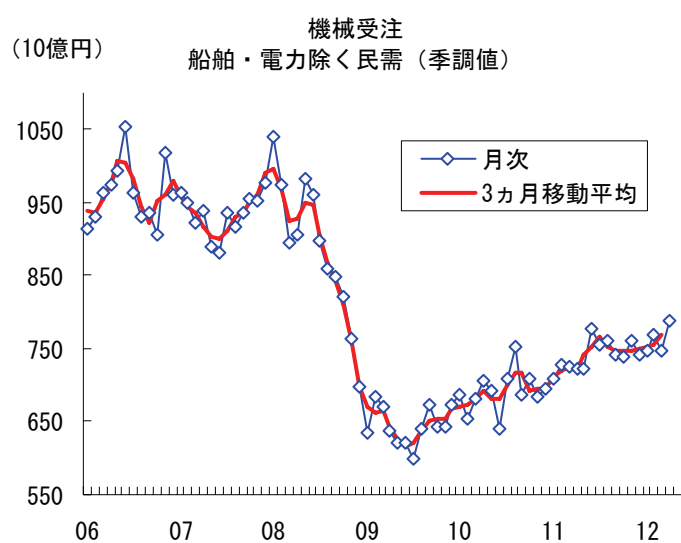
ただし、こうした見方には下振れリスクがある。欧州債務問題の再燃や世界経済の先行き不透明感の強まりに伴って金融市場の混乱が続いており、このことが企業の投資マインドの冷え込みに繋がり、投資が手控えられる可能性には特に注意が必要だ。前述の通り、4月の機械受注は好調、12年度の設備投資計画も増加見通しとなっているが、仮に企業マインドの下振れが続いた場合、投資計画の先送りや見直しに繋がる可能性があるため、今後の動向を注視していく必要がある。

○ 業種別の動向

4月の民需（船舶・電力除く）の内訳は、製造業が前月比+3.4%（3月：同▲8.4%）、非製造業（除船・電）が同+5.7%（3月：同▲3.9%）であり、共に増加した。

製造業は2ヶ月ぶりの増加となったが、均してみれば横ばい圏での推移が続いている。四半期で見ても、11年4-6月期が前期比+0.7%、7-9月期が同横ばい、10-12月期が同▲0.7%、12年1-3月期が同+0.1%、4月の1-3月期比も+0.4%である。やはり、輸出の持ち直しが明確化していないなかでは、なかなか製造業からの受注は高まりにくいようだ。その意味で、4月の外需が低調にとどまったことは懸念される（2月：前月比▲13.4%、3月：同▲14.4%、4月：同+0.3%。4月の水準の1-3月期比は▲14.4%）。先行き、輸出の回復度合いが、製造業からの受注持ち直しの鍵を握るだろう。

非製造業は前月比+5.7%（3月：同▲3.9%）と高い伸びとなった。なお、4月は卸小売業が前月比+41.1%と、一時的とみられる急増を見せており、この点は割り引く必要がある。非製造業は振れが激しく基調が読みづらいが、均してみれば横ばい～緩やかな増加といったところだろう。



（出所）内閣府「機械受注統計」